

山をタイブロカリティとして発表された。SAPT には幌泉ルチン山産の標本をはじめ、幌泉町禿山、日高山系のヤオロマップ山、オキシマップ山、ベテガリ岳から採集された標本が所蔵されている。昨年 7 月、十勝川支流札内川上流の岩壁上僅かな岩のすき間に根をおろして生育していたヤマブキショウマの一品は、まぎれもなくキレハヤマブキショウマである。本品の十勝側での記録はおそらくはじめてであろうが、日高山系南部という範囲からみると予想されてしかるべきであろう。

10) ケシヨウヤナギ *Chosenia arbutifolia* (Pall.) A. Skv. ケシヨウヤナギは北海道では太平洋に注ぐ十勝地方の諸河川、殊に十勝川支流にその分布が限られているとされていた(館脇操: 北海道におけるケシヨウヤナギの研究. 森林と技術 No. 2, 1-8, 1950)。1963 年秋、当時北見営林局で国有林野の土壌調査に従事されていた故川代善一氏が、北大農学部にてケシヨウヤナギらしい標本を持参され同定を依頼された。標本そのものはケシヨウヤナギであることには間違いなかったが、その由来についてよく分からず、館脇先生も移入されたものではないかと言うことで、とうとう詳しい調査をしないでしまった。1985 年秋、北紋地方の植生調査の折、問題の渚骨川流域を調べたところ、渚骨川河口付近から上渚骨にかけて、川岸や中州状のところかなりの量の分布をみた。所によっては稚樹、所によっては高木、あるいは両者の混生、あるいは開発や河川改修のため単木状に残存したり、その分布・生育状態はさまざまであるが十勝地方の分布にひけをとらない量であった。たしかに館脇先生は人為的導入を推測されたが、今日では最早自然林としてのケシヨウヤナギ林とみなしてよく、ここに記録しておく(図 1)。

Explanation of Plate IX

Cardamine trifida B. M. Jones found in Mt. Kitoushi, Higashitakasumachi, Hokkaido and cultivated in Asahikawa, Hokkaido. Photographed by Mr. Tsuneki Saito, May 9, 1984.

(北海道大学 大学院環境科学研究科)

○高等植物分布資料 (120) Materials for the distribution of vascular plants in Japan (120)

○カツモウイノデ *Ctenitis subglandulosa* (Hance) Ching を日本海側で初めて、と本欄 (118) で報告したが、すでに枚村喜則氏が「植物地理・分類研究」32: 18, 1984 で「島根半島に発見」と発表しておられるので、拙文の上記の一節を削除する。なお枚村氏の採集地と有田・錦織両氏のそれとは、遠くない別の場所のようである。ご指摘いただいた里見信生氏に感謝する。(東京都文京区 伊藤 洋 Hiroshi Iro)